

➤ 現行計画の検証作業の共有と課題抽出

分科会 1 班

政策目標	施策目標	基本施策	課題	その他コメント
4 環境づくり	4-1 生活環境	4-1-1 ごみの減量・資源化等衛生的な環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 水路掃除などについてやる地域とやらない地域の差があり、市民が一体となってクリーン活動に取り組めるような仕掛けが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民が一体となって取り組む水をきれいにする運動などがあつたほうがいいのではないかな。
		4-1-2 下水道施設などによる河川等の水質改善	<ul style="list-style-type: none"> 紀の川が昔と比べて汚れているとの声がある。国などの基準はクリアしているかもしれないが、市民が考えるような水質改善が行われていない。 紀の川が汚れているのは生活排水が原因。合併処理浄化槽の設置が進んでいるとは言い難い。 公共下水道整備推進が必要では？ 昔と比べると川が汚れているため、紀の川で取れる鮎などを今は食べたくないといった声がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 紀の川などの河川については他の市町との連携した取り組みも必要である。
	4-2 自然環境	4-2-2 水辺の自然ふれあい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 整備されている場所でも水には入れなかったり、整備されていない危険な場所の水辺で遊んだり、水辺の自然ふれあいがうまくいっているとは言い難い。 市が今後どこを整備して、最終的にどういった水辺の自然ふれあい環境をつくらうとしているのかが分からないため、子どもに対しては、結 	<ul style="list-style-type: none"> 水辺環境整備に係る市の計画が必要である。 基本構想部分においても、平池緑地公園など具体的な場所をイメージできる内容が必要なのではないかな。

政策目標	施策目標	基本施策	課題	その他コメント
			<p>局水辺は危険という判断になってしまう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の水辺を誰が管理するのかといった問題がある。例えば国が管理すべき水辺において、整備が終わっているとしても、日常の草刈りや安全管理は実質誰がやるか(国、県、市、市民の誰なのか)などである。 ・ ほたる鑑賞エリアでは、昨年は堤防における駐輪場で事故が起きており、環境整備は行政がしっかりやっていくべきである。 	

政策目標	施策目標	基本施策	課題	その他コメント
2 人づくり	2-1 医療・保健・福祉	2-1-1 地域医療体制および救急医療体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 医師確保に関して課題として含めてはどうか。どの診療科の医師が足りていないかということを確認したうえで、施策を検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none">
		2-1-2 健康づくりの支援	<ul style="list-style-type: none"> 	<p>(分科会以外の委員からのご意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康推進課、高齢介護課、スポーツ課、地域振興課や市民との合同でウォーキング推奨コースを策定し、健康づくりや水辺に親しむことのテーマを促進する。さらにウォーキング大会を桃山まつりにピンクリボンウォーキングとして、桃源郷マラソンをピンクリボンマラソンとして開催し、内外に紀の川市をアピールする。 <p>(関連基本施策 1-1-1、2-2-7、4-2-2)</p>
		2-1-5 子どもを安心して生み育てられる環境づくり、子育て環境・体制の整備、支援	<ul style="list-style-type: none"> 保育士の確保という課題はないだろうか。また、質の高い保育のためにも志の高い保育士を確保していただきたい。 	<p>(分科会以外の委員からのご意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 八王子保育所をJR下井阪駅付近に移転し、こぼと保育所の課題を解消するためにも園児を分割し八王子へ振り分ける。JR下井阪駅付近は土地利用構想の重要エリアであり、そこに保育所を移転することで送迎もしやすく、子育て・買い物・通勤の利便性から、若い家庭の移住を呼び込む環境が整い、市の活性化にもつながる。

政策目標	施策目標	基本施策	課題	その他コメント
	2-2 教育・文化	2-2-1 人権の教育・啓発、男女共同参画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政機関等における委員会での女性の確保ということを目指しているが、現時点では、まだまだ女性の進出が足りなのではないか。 ・ 紀の川市は「女性会議」の活動が少ない。これは委員の任期が1年ということにも関連しているのではないだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・
		2-2-2 小中学校教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学校司書、司書教諭、栄養教諭などを積極的に配置してほしい。近年は、特に家庭に課題を抱えている児童生徒も多いため、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーは積極的に配置すべきではないか。 ・ 不登校児童生徒の割合が増えているという記述があるが、不登校への対応も充実させるべきではないか。 ・ 近畿大学があるので、大学の人材をさらに活用すべきではないか。学習支援やリーダーズ研修など現時点でも他団体にて実施しているメニューも複数あり、紀の川市でも人材を積極的に活用すべき。その際、ボランティア保険の予算措置に関して、検討いただきたい。 ・ 今度、少子化が進むことで、小学校の統廃合も考えられるが、現時点でも小規模校から隣の校 	<ul style="list-style-type: none"> ・

政策目標	施策目標	基本施策	課題	その他コメント
			区の学校（規模の大きい学校）に通わせたいという保護者も出てきている。	
		2-2-3 家庭教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親がスマホをいじっており、子どもは騒いでいるような親子を見ることが少なくない。親子での会話が少ないのが実状ではないか。 ・ 他人の子どもを叱ることも、ますます難しくなっている。 	・
		2-2-4 地域での子どもの健全育成の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老人クラブや障がい者団体などにも声があり、小学校へ講和などを行っているケースもみられる。 ・ 地域の人材がもっと積極的に活躍できる場があればよいのではないか。地域人材の活用が必要である。 	・

政策目標	施策目標	基本施策	課題	その他コメント
3 基盤づくり	3-2 農業・産業 振興	3-2-1 就業しやすい活 力ある産業づく り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業誘致には、効率的な物流ルートがポイントとなるため、京奈和自動車道の開通は追い風である（ただし、1つの企業（中小企業）に来てもらっても10～20人程度の雇用が確保できる程度である）。 ・ 製造業などの場合は需要の有無も影響する（桃山にダンボール製造業者があるが、紀の川市周辺は果物がたくさん採れるため、段ボールの需要がある）。 ・ 近くの紀北工業高校をはじめ、近畿大学、和歌山大学には、良い人材もいるものの、就職で大阪に行ってしまう傾向にある（大手（メジャー）志向、大阪までの通勤が便利になっているため）。 	・
		3-2-3 活力農業と食の まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を考えると出来ないことばかりになるが、その中でも紀の川市は何をしていくかを考えていく必要がある。 ・ 「耕作放棄地の増加」「担い手不足」など課題が抽象的すぎてイメージできない（どのような場所でどのように耕作放棄地が増えていくのか、またどの地域をどう整備していくのかなど具体 	

政策目標	施策目標	基本施策	課題	その他コメント
			<p>的に課題を整理することが必要である)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在でも農地の円滑化事業や中間管理事業で土地の貸し借りを進めている（良い土地は貸し借りが進んでいる）が、中山間地域は難しいのではないか。 ・ 果樹の需要は年々減少し生産量も減少しており、需給に合わせた生産量で成り立っているため生き残っているのが現状である。 ・ 6次産業で成功することは難しい（特に生産しながら6次産業に取り組むことは難しい）。 ・ 担い手不足への対応として外国人の技能実習生の受入れも考えられるが、法人化などの一定程度の規模が必要となる（果樹は家族経営が中心であるため畜産や米よりも法人化は遅れる可能性が高い）。 ・ “フルーツのまち”を振興していくのであれば、家族経営で対応できないこともあるため、機械（選果機）は共同利用できる環境とするなど、果樹振興をどのように進めるか検討する必要がある。 	
		3-2-4 魅力ある田園観光交流のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人との交流の観点から考え、体験型観光（日本はどのような農業をしているか、どのようなフルーツを作っているかなどを体験）は1つの 	<ul style="list-style-type: none"> ・ J Aと行政との果樹のトップセールスの機会を通じて交流人口増加に繋がるアピールをしている

政策目標	施策目標	基本施策	課題	その他コメント
		くり	<p>切り口である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紀の川市の観光として捉えるか、高野山などを含めて広域の観光として捉えるかは判断が難しい。 ・ 相乗効果がでるような取り組みが必要である（例えば、めっけもん広場に立ち寄ったついでに行こうと思えるようなものがあるとよい）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ めっけもん広場の年間 70 万人の来場者数のうち 40 万人が県外からの来場者 ・ 観光事業者主催の桃狩りツアー3 千人の誘客があるが、他の観光ルートに誘導できていない。 ・ 青洲の里（道の駅）を活用した観光資源の構築に期待
その他			<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標が達成された姿は目標であるため表現が抽象的であるが、今後の課題の整理も抽象的になっているため、より具体的にイメージできるよう課題を整理するほうがよい。 	